

の買えんだから」って、おやじに小判持たせで、まず買物にやったんだって。そしたらなんにも買あねで来たんだってナ。そして、「どうして買あねで来た」ったら、「途中で池に鴨がいっぱい浮きてたから、その鴨獲ってお前に食わせっぺと思って、その錢鴨にぶっつけたんだ」ってない。「そしたら錢は沈んじゃうし、鴨も何も獲って来ね」ってった。「この錢さえあればなんでも好きな物買えるんだから」ってね。「あゝだものでもあんめえや、俺の後の炭焼窯土ひっぱがしたら、こんなものピカピカピカってなっほでもある」ってゆうんだと、そしてそのお姫様も行って見たんだってナ、そしたら金だって、イヤア、金がいっぺいなんだって。

そして子供三人生まっちゃんだって、吉次、吉四、吉六ってナ。そしておっきぐ育て京都の爺様がどこさ行ってナ。そして金に不自由しているとゆうので、牛に十三段つけて行ったって、金にしてまた牛につけて来たってない、そして物騒だからな、熊坂長範なんて人いたんだってね。それで物騒だから義経様が「奥州まで送ってぐべ」って、送って来たんだとナ。そしたら義経様は、「こゝまで来たんだから、ハア大丈夫だから……」って、「俺は関山様さお詣りして行んから」って。そして関山万願寺さあがってナ、そしてその人は皮籠とどこさ泊まったんだと。そしたらその熊坂長範がな今度義経がいねもんだから来てナ。皮籠焼いでナ。そしてこうほいたんという川の椽さねまって逃げらんにだって。逃げただけっども、皮籠の人たち情ねんだかなんだか、おっかねんだかなんだか、助けてくんにだって。関山から降りて来たらない、殺された。長範逃げちゃっていねんだって、そして「俺がな、送ってげばよかった」って、泣き泣き行ってその村さ着いだったかな。そして長泣きってゆうんだってナ。そして、その吉次、吉四、吉六ってゆう墓あるんだってナ。

(3) 長坂小僧

長坂小僧は悪事ばかりしてたんだって、そしておっか様には、あっちがらもこっちがらも苦情来んだってナ、そしておっか様が口説くから、おとつあまが怒ったんだってナ、おとつあまが怒ると、ポンと裸足で外さ飛び出しちまア。そしとおとつあま足半草履履いで、あどから追っかける。そんじゃってとでもとでも、篠っからん中から、もやん中からおとつあまの入らんにごどこさでもなんでも入んだって、それでおとつあまは仕方なく勘当したわけだんべ。

そしたら、服部の旦那様ってな、「お前がそれほど盗みが上手なんだから、俺がこの槍くれっから、んだからこの槍は何日の何時に取りに来」ってわけなんだ。それで服部様は寝ねでその槍を掴んであるわけなんだ。そしたら、その晩げ、うんとどしゃぶりの雨なんだって。んで、傘さして長坂小僧行ったわけだナ。傘は雨垂れの落ちとどこさ置いて音させでんだ。そしたら服部様は、「俺寝ねで、こうしていっから取りにこらんにごでいんだナ、野郎可愛そうに」ど思っって、槍を持っていたんだってナ。したげんじょも、立てていたから、槍の先は天井の方にあっただってナ。そしたら長坂小僧煙出しから入って梁を渡って来て、そして服部様が持っている槍の先を持ってったわけだ。そして持ってぐ時、服部様はくれる約束だからいいんだっけっども、そこさ歌をつくってったって。「服部はんぞう槍はんぞう、裏のはんぞうはにはんぞう」って、歌を詠んでいがっチャのがごせやけて、あと追わせだわけだ。そしたら南会津の「塔のへつり」を逃げで、塔のへつりの岩ん中さ隠れっちゃってゆうだナ、そして岩ん中さむぐっちゃって、「来い来い、ってゆうだげんじょも、掴めっこど出来ねんだって。